

「寿量の仏」を釈尊と回答する「SOKA D.I. SEARCH」の不正

御本尊様の相貌について大謗法の検索は即刻、廃止すべきである

2026年3月20日

創価高・大学4期 図斉 修

一昨日18日、池田大作先生の著作・指導から、知りたいことや悩んでいることに合った一節を、自然な会話形式で検索できる「SOKA D.I. SEARCH」がスタートしました。

私は、親友A氏が登録したので、今一番の邪義と考える「教学要綱」78頁の文「大聖人が顕された文字曼荼羅の御本尊は、上行等の四菩薩が釈尊の脇士となっているので、この釈尊は『法華経』本門寿量品における釈尊、すなわち「寿量の仏」である。さらに、その「寿量の仏」そのものが、首題の「南無妙法蓮華経」の脇士に位置づけられている一「寿量の仏」について、親友に検索して貰いました。すると、以下、回答でした。

「寿量の仏」とは？

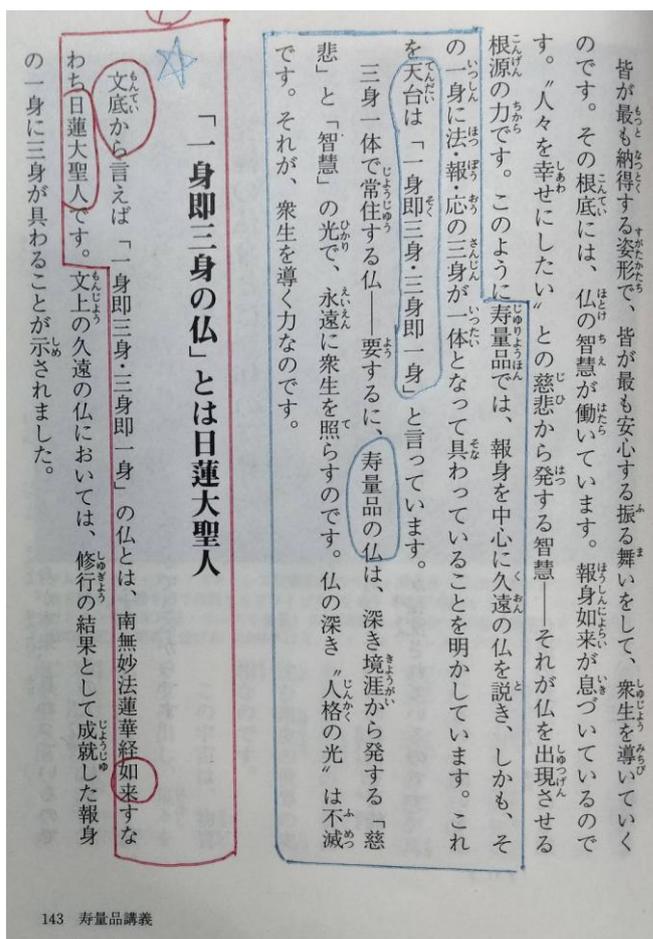


「寿量の仏」についてご質問くださり、ありがとうございます。仏法の根本に関わる大切なテーマですね。池田先生のご指導から、さまざまな観点で学んでみましょう。

題号の「如来寿量」とは、「如来の寿命を量る」ということです。如来の「寿命の長さ」を量ることは、「如来に具わる功德の広大さ」をも量ることです。仏の寿命が長遠であれば、それだけ多くの人々を救える。功德が大きい。したがって、天台は、「寿量」の意義について、「功德を詮量する」、すなわち、さまざまな如来の功德を量り、明らかにすることであると説明している。（大正三十四卷一二七頁）

天台は、如来に具わる功德として、具体的に、法身（覚られた真理）・報身（覚る智慧）・応身（衆生に応じて現す姿）の「三身」を挙げている。そして、この「三身」の徳を一身に具える真実の常住の仏は、久遠実成の釈尊であると説き明かしている。

『新版 法華経 方便品・自我偈講義』



(1996年2月16日発刊)

その結果は、案の定、池田先生の本当のご指導である「法華経 方便品・寿量品講義」2 寿量品-1 (143頁) の以下原文の主意—**寿量品の仏の本義 (太字) 一が、完全に無視でした。**

(上記の**赤枠**が、新版(2024年刊)では**完全削除**)

一寿量品では、報身を中心に久遠の仏を説き、しかも、その一身に法・報・応の三身が一体となって具わっていることを明かしています。これを天台は「一身即三身・三身即一身」と言っています(大正三十四卷一二九ページ) 三身一体で常住する仏——要するに、**寿量品の仏**は、深き境涯から発する「慈悲」と「智慧」の光で、永遠に衆生を照らすのです。仏の深き”人格の光”は不滅です。それが、衆生を導く力なのです。

(小題)「一身即三身・三身即一身の仏」とは日蓮大聖人 文底から言

えば「一身即三身・三身即一身」の仏とは、南無妙法蓮華経如来すな

わち日蓮大聖人です。文上の久遠の仏においては、修行の結果として成就した報身の一身に三身が具わることが示されました。これに対して、文底においては凡夫の一身に三身が本来、具わっているのです。これを「無作の三身」といいます。

「無作」というのは、この大宇宙に本来、三身の徳が具わっており、作り改める必要がないからです。したがって、また、凡夫の姿を改めることなく、この仏身を成就することができるからです。そして、この「無作の三身」こそが究極の仏身です。寿量品の本意は、釈尊滅後の一切衆生を救うことにあります。この救済を可能にするために、寿量品の文底に、究極の「無作の三身」が秘沈されているのです—と。

上記の小題と最重要の記述—「一身即三身・三身即一身の仏」とは日蓮大聖人文底から言えば「一身即三身・三身即一身」の仏とは、南無妙法蓮華經如来すなわち日蓮大聖人です—を削除し、改竄した「新版 法華經 方便品・自我偈講義」187 頁から、何と、釈尊の記述を含んだ天台の解釈だけを引用して—

釈尊が「寿量の仏」である—との大邪義を回答です。—と。

The image shows two pages of handwritten notes. The left page is titled "AIの引用部" and contains a detailed analysis of Buddhist texts, with red and blue annotations. The right page is also titled "AIの引用部" and contains more notes, including a diagram of a "南無妙法蓮華經如来の功徳を量る" (Measuring the功德 of the Lotus Sutra Buddha) and a reference to "186~187".

⑤ 先生の講義では、「ご小に対して、(文底で) 改ざん」と明記するのに「消去され、日蓮仏法で日」と

⑥ 前掲

品の題号を「身に当たる大事」とされたのです。北田先生の講義で「南無妙法蓮華經如来の功徳を量る」の義

また、寿量品の題号には、南無妙法蓮華經の功徳が示されている。この点について、もう少し立ち入って述べてみたい。

題号の「如来寿量」とは、「如来の寿命を量る」ということです。如来の寿命の長さ、を量ることは、如来に具わる功徳の広大さ、をも量ることです。仏の寿命が長遠であれば、それだけ多くの人々を救える。功徳が大きい。したがって、天台は、「寿量」の意義について、「功徳を証量する」、すなわち、さまざまな如来の功徳を量り、明らかにすることであると説明している。(大正三十四卷二七六)

天台は、如来に具わる功徳として、具体的に、法身(覺られた真理)・報身(覺る智慧)・応身(衆生に応じて現す姿)の「三身」を挙げている。そして、この「三身」の徳を一身に具える真実の常住の仏は、久遠実成の釈尊であると説き明かしている。

これに対して、日蓮仏法では、三身常住の仏の功徳の根源が、南無妙法蓮華經であるととらえます。久遠実成の仏の具える功徳は、すべて南無妙法蓮華經に帰するのです。ゆえに大聖人は、寿量品の題号は、「南無妙法蓮華經如来寿量品」(新一〇四八、全七五二)と読むべきであると示されているのです。

戸田先生も「ここに南無という二字をおつけになっただけで、如来という二文字の読み方が、ぜんぜん変わってくる」と強調されていた。寿量品の題号を「南無妙法蓮華經如来寿量品」と読むとき、「南無妙法蓮華經如来」の功徳を量る、という意味になるのです。大聖人が「この品の題目は日蓮が身に当たる大事なり」(新一〇四八、全七五二)と仰せになつているのも、御自身が南無妙法蓮華經と一体だからです。

また、ありのままの仏である「末法の仏」を「無作の三身」とも言います。無作とは「本来」ありのまま、という意味です。大聖人は「無作の三身」とは、末法の法華經の行者

⑦ 先生の講義は「文底の仏も」とある。これは追記されている。末法の仏と限定した!

187 寿量品講義

⑧ 消去されている! 先生の講義には「文底の仏である」と!

186~187 AIの引用部

AIの引用部

AIの引用部

(一体は如来) 25頁を (自覚) ④改ざん

「」の記述が、「SOKA D.I. SEARCH」の引用、回答箇所

さらに、検索結果は池田先生の以下、本当のご指導にも違背しているので
す！このような酷い検索機能、「SOKA D.I. SEARCH」は、即刻廃止せよ！

第十六回本部幹部会 **寿量品の仏** 1989.4.19 スピーチ(池田大作全集第72巻)には
一大聖人様は御義口伝に『今日蓮等の類い南無妙法蓮華経と唱え奉る者は寿量
品の本主なり』と仰せになっております。**寿量品を説かれた釈尊が本主ではあ
りません。**真実の信心を持ち、南無妙法蓮華経の当体となった我々こそ寿量品
の本主であります。**寿量品の仏**であります。この寿量品の文底の南無妙法蓮華
経を行ずるが故に、本門寿量の当体蓮華仏とは我々のことであると、深く信心
を以て確信していかなければならないのであります」と。(中略) 寿量品は一
切経の要中の要である。その**寿量品の本主は別しては御本仏・日蓮大聖人**であ
られる。そして大聖人は、もったいなくも、総じて私ども門下をも「寿量品の
本主」に含めてくださっている一と。

以上、池田先生のご指導より、こんな「SOKA D.I. SEARCH」の不正が許さ
れるのか！学会員を愚弄、騙しているではないか！

(私見)「SOKA D.I. SEARCH」の基礎となる情報、とりわけ、池田先生の教学
のご指導は、2010年以降、既述の「法華経 方便品・寿量品講義」他、
「御義口伝講義」「開目抄」講義、「観心本尊抄」講義など多数の原本の文章
が、変更、削除、改竄されています。私は、その実態を一創立95周年の日に
思うー「教学要綱」の不正 <https://share.google/1OW21A8br2Ca3GLHb> に記し
置きました。ご覧ください。

この度、池田先生の本当のご指導を変更、その上で、「SOKA D.I. SEARCH」
を開設したことは、池田先生の本当のご指導が、さらに、学会員さんから遠の
いてしまうと危惧しています。ゆえに私は、今後も、池田先生の本当のご指導
を、皆様にお知らせしていく決意でいます。私は、この度の拙文も日蓮仏法の
真義と池田先生の本当のご指導を厳守するべく、池田門下生の使命と責務を胸
に厳然と破邪顕正しました。以上でこの拙文を終わります。

皆様のご高見を頂きたく存じます。ご友人にも転送下さい。そして、皆様か
らの奇譚なきご意見、ご指導を私の一kiiroibara.526@gmail.com に送付、宜しく
お願い申し上げます。 敬具 図斉修